

振興部の 知っところ！神美

知っておいてほしい神美を紹介します。

【三宅編 I】



三宅の地名

『播磨国風土記』揖保郡いぼの項に越部里こしべのさと(龍野市新宮町)は、安閑天皇の代、但馬の君・小津おつが但馬の三宅から移ったのでその名があると伝えるが、大和朝廷直轄領としての屯倉みやけ(三宅)は大化の改新(六四五)で廃止されている。越部へ移ったのは養父郡の三宅であろう。

三宅連むらじの祖という田道間守たじまもりを祭神とする中嶋神社は二間社流造である。小字トウ屋敷は塔屋敷と見られ、白鳳期寺院の鴟尾片や基壇の一部が出土した。天平勝宝二年(七五〇)正月八日の「但馬国司解」に出石郡穴見郷戸主・大生直山方おおぶのあたえやまかたの名が出るが、建立者として有力な名である。中嶋神社の明応十年(一五〇一)五月二十八日付の「上造月記写」に「不死薬琳寺」の名があることから、廃寺を薬琳廃寺と呼んできたが、両者の関係は全く証明されていない。

廃寺を三宅廃寺とする。明治後期から昭和中期まで三宅焼が焼かれた。前半は垣添石松が京焼風の趣味陶を、後半は弟子たちが養蚕用品を焼いた。

(豊岡の地名 山口久喜著より)

三宅の観音さん

三宅部落の中央山すそに、光明山慈等寺がある。

このお寺の本堂の向かって左側の御堂に観音さんが祭ってある。

この観音さんは、前の薬琳寺の本尊だと言われ、十一面千手観音で今では県の重要文化財として指定されているが、この観音さんには次のような言い伝えがある。

慈等寺は度々の火災にあっているが、多分正保年間の火災の時、寺は焼け落ちてしまった。

火が鎮まってから、人々があの観音さんはどうなったかと観音堂の近くに行くと、観音堂は焼けてしまっているのに観音さんだけはだれも持って行った訳ではないのに池の中に立っておられた。そのため観音さんの背中が煙で黒くなっているとのことである。

観音さんのまつりは七月十七日で、この日には村の者が盆踊りをするようになっていて、盆踊りをしないと火事があるとのこと今でも続いている。

大垣正幸記「豊岡民話 耳ぶくろ(昭和 50 年発行)」より